



1 学年だより

第8号

令和4年9月30日(金)

今年度前期が終了！

学校生活に慣れてきたからこそ **こんなことも考えてほしい**

人には、「したいこと」があり、一方には「しなければならないこと」があります。その間に葛藤が生じます。そこで問題になることは「何を優先させて行動するか」です。生徒として、今しなければならないことは何でしょうか。その判断がずれてしまっているところが見受けられるのならば、心が緩んできているということになるでしょう。よく考えて適切に行動できるようにしましょう。

●規則(校則)を守って行動する

なぜ規則を守らなければならないのか。その理由は組織・集団の秩序を保つためです。それは、社会に出てからも同じです。服装が少し乱れていても、放課後の時間帯にゲームやインスタチェックを目的にスマホを使っている、自分自身のことだから誰にも迷惑を掛けていないだろうと思う人がいるかもしれませんが、それは自己中心的な解釈です。規則を守れない人が同じ空間にいるということを知り、周りの人たちが不愉快に思っていることに気付いてほしいものです。そのような環境で円滑な集団生活は営むことはできません。居心地の良いクラス・学年・学校を生み出すのは生徒の皆さん自身です。

●清掃にきちんと参加できる人になる

清掃の時間になったにもかかわらず、廊下でおしゃべりをして清掃場所へ移動できていない人や教室の自分の机・椅子を速やかに運ばない人が見受けられます。自分の事で時間を使うのは後回しにして、みんなで荷を分かち合うべきではありませんか。誰かに任せるのではなく、進んで作業をするよう心掛けてほしいものです。

●周囲に気を配る

- 「教室のここに荷物を置いたら歩くのに邪魔だなあ・・・」
- 「自分の周りにゴミが 落ちている・・・」
- 「黒板が消してない。自分は当番ではないけど・・・」
- 「教卓に教科のプリントや課題ノートが放置。自分は係ではないけど・・・」
- 「自習の時間 に私語をしている人がいるけど・・・」



これらは日常生活でありがちな場面です。気付いていますか？ 気付くためには視野を広げましょう。そして、気付いたら勇気を持って良かれと思う行動をとることです。他人ごととして処理するのではなく、気付いて人のために行動できる生徒、そして、社会人になることを期待しています。

< 10月の行事予定 >

10月 1日(土)	10月 4日(火)～ 7日(金)	10月 8日(土)	10月 12日(水)	10月 14日(金)	10月 16日(日)	10月 26日(水)

※10月中旬に進路希望調査を実施する予定。

「卒業生による対話型講話」実施報告

開催日：令和4年9月9日(金) 5校時

講師：旧喜多方高校卒業生3名

- ・小荒井 麗さん (新潟大学 法学部法学科 3年)
- ・芳賀 眞結子さん (宮城教育大学 教育学部初等教育学科 3年)
- ・梁田 大地さん (東北学院大学 文学部歴史学科 3年)

形式：パネルディスカッション

◆生徒の感想◆

今回の講話から、「自分の可能性を広げていきたい」と思いました。授業での発表でさえ遠慮がちですが、自分を高めていくために勇気を出すことができる人になりたいと思いました。NGOやサークル活動のお話も、とても興味深かったです。私自身、部活動が運動部なので学習時間を確保することが大変ですが、私も負けず嫌いなので、今日の話を生かして頑張りたいです。

今回のお話をとおして、何事にも興味をもってチャレンジすることが大切だと思いました。三人の方々があきらめず自分から挑戦している姿やスキルアップのために取り組んでいることがすごいなあと思ったので、私も今のうちからできる限り精一杯チャレンジし、大学に行ってやりたいことを考えていきたいです。勉強になるお話が聴けて本当に良かったです。

すごくお話が分かりやすく、アルバイトの話から高校時代の話までとても幅広かった。また、大学に行くことで学べるものがたくさんあることも知れた。今しかできないことをすること、失敗をおそれず何事にも挑戦すること、自分にとって心地の良い環境づくりの大切さなど学ぶことが多かった。今日の講話を自分自身の将来にいかしていきたい。

将来については、大学生活の中で人との関わりを持って、そこで決めていったり変わっていったということが印象的でした。そして、将来に向かって学ぶことが大切だと思いました。また、卒業生の方々が勉強とアルバイトなどを両立していることもすごいと思いました。アルバイトから学ぶことも多くあり、専門知識を身につけるチャンスがあることにも興味をもちました。

「薬物乱用防止講話」実施報告

開催日：令和4年9月16日(金) 6校時

講師：「磐梯ダルクリカバリーハウス」スタッフの方2名

◆生徒の感想◆

小学生の頃から、薬物を使ってはいけないという話を何度も聞いてきましたが、今回は、初めて薬物使用経験のある方から実際のお話をきき言葉の重みを感じるとともに、病院から処方される薬からも依存症になる可能性があるという知識を得ることができました。このことを頭に入れ、自分の身をしっかりと守れるようになりたいと思いました。

子どもの頃など薬物について知らない時は絶対に使わないと思っていても、興味をもってしまったり、医者から出される薬や友達関係を通してなど、身近なところに薬物の危険があることを知ることができた。食事や睡眠、入浴などがまともにできないほど、薬物は身体や精神に影響を与えてしまうものだ改めて知ることができた。そして、「薬物を使わない」ということをずっと心に留めておきたいと思った。

実際のところ、「自分は薬物には手を出さない」と思っているし、薬物で幻覚や幻聴が起こることは知っていたが、今日話してくださった方も「自分はやらない」と思っていたということをきいてとても怖くなった。確かに、仲の良い人が薬物を使っていたら断りにくいし、興味を持ってしまうこともあるのかもしれない。だからこそ、自分を過信せず、薬物は良くないことをしっかり考えながら生活することが必要だと思った。